

Excel VBA による分かりやすい ファイル操作

WSH環境の具体的な使用方法を事例主体で丁寧に解説

デスクトップやWordファイルも操作可能になります

Excel VBA中級へのステップアップに最適

2014年 1 月版

パソコン出張教授船橋

高橋正夫著

当テキストの全て又は一部のコピーはご遠慮ください。

目 次

1. はじめに	5
(1) このテキストの目的	5
(2) 注意事項	5
(3) 当テキスト使用の前提スキル	5
(4) 用語「オブジェクト」、「メソッド」、「インスタンス」、「クラス」、「プログラム識別子」の説明	5
2. WSH環境と使用オブジェクト	6
(1) WSH環境について	6
(1) WshShellオブジェクト	6
(2) FileSystemObject (FSO) オブジェクト	6
(3) Word.Applicationオブジェクト	6
第2章 事例説明	8
1. デスクトップにショートカットを作成	8
(1) 事例説明	8
(2) 考え方	8
(3) 手順	8
(4) コーディング例	9
2. デスクトップのショートカットを削除	10
(1) 事例説明	10
(2) 考え方	10
(3) 手順	10
(4) コーディング例	11
3. デスクトップのショートカットの存在確認	12
(1) 事例説明	12
(2) 考え方	12
(3) 手順	12
(4) コーディング例	13
4. 練習問題A(デスクトップに既存を確認の上、ショートカットを作成)	14
5. デスクトップにWebショートカットを作成	15
(1) 事例説明	15
(2) 考え方	15
(3) 手順	15
(4) コーディング例	16
6. デスクトップのWebショートカットを削除	17
(1) 事例説明	17
(2) 考え方	17
(3) 手順	17
(4) コーディング例	18
7. デスクトップのWebショートカットの存在確認	19
(1) 事例説明	19

(2) 考え方.....	19
(3) 手順.....	19
(4) コーディング例.....	20
8. 練習問題B(デスクトップに既存を確認の上、Webショートカットを作成)	21
9. マイドキュメントにフォルダーを作成	22
(1) 事例説明.....	22
(2) 考え方:.....	22
(3) 手順	22
(4) コーディング例.....	23
10. マイドキュメントのフォルダーを削除.....	24
(1) 事例説明.....	24
(2) 考え方:.....	24
(3) 手順	24
(4) コーディング例.....	25
11. マイドキュメントのフォルダーの存在確認	26
(1) 事例説明.....	26
(2) 考え方:.....	26
(3) 手順	26
(4) コーディング例.....	27
12. フォルダー内の全ファイルおよび全サブフォルダーの順次表示	28
(1) 事例説明.....	28
(2) 考え方:.....	28
(3) 手順	28
(4) コーディング例	28
13. 練習問題C(マイドキュメントに既存を確認の上、フォルダーを作成)	30
14. W o r d ファイルを新規に作成する	31
(1) 事例説明.....	31
(2) 考え方:.....	31
(3) 手順	31
15. 既存のW o r d ファイルに文章を追加する.....	33
(1) 事例説明.....	33
(2) 考え方:.....	33
(3) 手順	33
(4) コーディング例.....	33
16. W o r d 文書を印刷する.....	35
(1) 事例説明.....	35
(2) 考え方:.....	35
(3) 手順	35
(4) コーディング例.....	36
第3章 オブジェクト一覧.....	37
1. 当テキストでを使用したオブジェクト一覧.....	37

2. 参考資料 : 主要オブジェクト一覧.....	38
第4章 練習問題の回答例	39
1. 練習問題A(デスクトップに既存を確認の上、ショートカットを作成)	39
2. 練習問題B(デスクトップに既存を確認の上、Webショートカットを作成)	43
3. 練習問題C(マイドキュメントに既存を確認の上、フォルダーを作成)	47
あとがき.....	51

1.はじめに

(1)このテキストの目的

さまざまな目的でExcel VBAを活用して処理の自動化などが幅広い分野で行われています。このテキストでは更に便利に活用するための方法を解説いたします。

Excel VBAでExcelによる表計算の自動化などの範囲を超える処理、例えばワードファイルの操作、デスクトップへのショートカットの作成、マイドキュメントなどのフォルダー操作、他のアプリの起動などを行うための方法は一般の解説書には殆ど記載されていません。当テキストではこれらの基本機能について体系的かつシンプルな実例を用い分かりやすく解説いたしましたのでご活用ください。

(2)注意事項

フォルダーやファイルに関する処理はコーディングに誤りがあると、意図した以外のファイルやフォルダーが削除されてしまうなど取り返しがつかない事態が発生する場合があります。

各関数、オブジェクト、コマンドなどの内容を十分に理解した上でコーディングしてください、さらにプログラム実行の前にはコーディング内容を慎重に確認してください。

Option Explicit は必ず指定しましょう。

VBAなどのプログラムから削除されたファイルやフォルダーはゴミ箱には入りませんので、いったん削除されると復元することはできません。

重要なファイル等は必ず事前に安全な場所にバックアップを取ってください。

尚、当方では当テキストに基づく処理で発生した障害等の一切の責任は負えませんのでご了承ください。

(3)当テキスト使用の前提スキル

Excel VBAの初級レベルをマスターしている方が対象です。初級レベルとは例えば複数のExcelブック間でデータの移動などの処理をExcel VBAで作成出来るレベルです。これからExcel VBAを始められる方は先ず初級レベルをマスターしてから当テキストをご使用ください。

(4)用語「オブジェクト」、「メソッド」、「インスタンス」、「クラス」、「プログラム識別子」の説明

オブジェクト: ある特定の機能を果たすためのソフトウェアのユニットです。
この中にはメソッドとデータが含まれます。

メソッド: 処理方法のことです。
1つのオブジェクトには数種類のメソッドが含まれます。

インスタンス: オブジェクトを実行するために具体的な内容をセットしたものです。

クラス: インスタンスの集合です。

プログラム識別子: 特定のオブジェクトを呼び出すための識別子です。